

麻しんワクチン（第二期）を受けていない人

※札幌市の麻しんワクチン（第二期）の接種率＝85%（令和4年度実績）

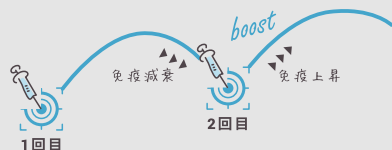
計算式：100－85＝15

15%

Answer

麻しんワクチンの接種回数は2回

ワクチン接種による免疫上昇効果



麻しんは、ワクチン接種により感染を防止し発症を抑制することができます。予防接種法に基づく定期予防接種では、1歳児（第一期）および小学校就学前（第二期）での2回接種を行うこととなっています。1回の接種で約95%の方が免疫を獲得できますが、以下の理由から2回接種が推奨されております。

- ③ 1回の接種で免疫がつかなかった子どもたちに免疫を与えること
- ③ ワクチン接種後、時間経過で減衰した免疫に刺激を与え強固なものにすること（＝ブースター効果）

札幌市は接種率が低い

麻しんワクチン（第二期）の接種率（令和4年度）



日本は麻しんの排除状態にあり土着したウイルスはいないとされていますが、海外からウイルスが持ち込まれるリスクがあります。国内での流行を防止するためには、ワクチン接種率を高めることが重要であり、国として「2回の予防接種率95%」を目標としています。札幌市では、全国的にみて第二期の接種率が低い傾向にあり、接種率の向上が課題となっています。

Introduction

麻しんのこと

麻しんの特徴

麻しんは「はしか」とも呼ばれ、パラミクソウイルス科に属する麻しんウイルスの感染によって起こる感染症です。

典型的な症状は、約10～12日間の潜伏期間の後に風邪様症状を呈し、一旦解熱した後再び高熱となり、発疹が出現します。口の中にコプリック斑と呼ばれる周りが赤く中心が白い粘膜疹が認められることがあります。感染経路は、空気感染・飛沫感染・接触感染で、感染力が極めて強いといわれています。麻しんに罹った場合、特異的な治療法はないため対症療法が中心となります。

日本は麻しんの排除状態にあります。海外からのウイルスの持ち込みに起因する集団発生事例が報告されています。このことから、ワクチンにより免疫力を高めておくこと

が重要といえます。また、麻しんが流行している国に渡航される場合は、ワクチンの履歴を確認し必要の場合は接種を受けること、帰国後に体調不良になった場合は速やかに医療機関に相談することにより、自身の健康を守ることに加えて周囲の方々への感染拡大防止に努めましょう。

麻しんと風しんは別の病気

麻しんと混同されることの多い感染症として「風しん」があります。これは全く別の感染症であり、麻しんに罹ったからと言って風しんに罹らないということはありません。

なお、予防接種に一般的に用いられるMRワクチンには、麻しんと風しんの両方の免疫力を高める効果があります。

Message

小学校入学前にもワクチン接種を